

図書館員のための西洋書誌学入門

安形 麻理

(慶應義塾大学文学部教授)

1. 書誌学とは

- ① 体系書誌学 (systematic bibliography)・列挙書誌学 (enumerative bibliography)
書誌の編纂およびその作成方法に関する研究
Ex.参考文献リスト、特定主題書誌、著者書誌、人物書誌、図書館目録
- ② 分析書誌学 (analytical bibliography)：講義で扱うのはコチラ
物理的な「モノ」としての書物およびそれによる文献伝達の研究

さて、書誌学とは「本を研究対象とした学問」と述べたばかりですが、ここでいう「本」とは二枚の表紙に挟まれた独立体としての印刷物に限らないということは、本書を読めば一目瞭然です。そこには楽譜、パンフレットやブロードサイドも含まれますし、本の挿絵や手紙なども含まれてきます。また、出版されたものの中の特定の一部を指すことも、出版物の伝える内容や思想を指すこともあります。さらには、それらの出版物を構成するもの—紙、インク、活字、製本材料（糸、針金、糊、革、紙、ヴェラム、布など）—そして、図書ができ上がって人手に渡るまでの過程に携わる人々—作者、挿絵画家、彫刻家、製紙工、活字鋳造者、印刷師、製本師、小売業者、出版社、書籍商、目録編纂者、読者など—に至るまで、「活字文化」を取り巻くすべての物や者の大宇宙。これこそが書誌学の対象なのです。

ジョン・カーター. 西洋書誌学入門. 図書出版社, 1994, p. 414-415 (あとがきより).

2. 分析書誌学の研究略史

Tanselle, G. Thomas. *Bibliographical analysis: A historical introduction*.
Cambridge, Cambridge University Press, 2009. に沿って説明

(1) 19世紀後半の科学としての書誌学の成立

分析書誌学は、19世紀後半にイギリスを中心に発展した比較的新しい学問領域である。1892年に英国書誌学会 (The Bibliographical Society)、1904年に米国書誌学会 (The Bibliographical Society of America) が設立された。もちろん、それまでにも愛書家やコレクター、図書館員、歴史学者が、目録の作成や文献学的研究、印刷術の誕生などをめぐる数々の証拠の発見と議論を脈々と行い、成果を挙げていた。

体系的な科学としての書誌学は、ケンブリッジ大学図書館で1850年代から初期刊本

(15世紀に印刷された本、インキュナブラ)を担当し、やがて同図書館長となったブラッドショー (Henry Bradshaw) を先駆者とする。中心的な課題は、活字や用紙の調査に基づく初期刊本の印刷年代や印刷業者の同定であった。

※初期刊本とは (incunabula, early printed books)

- ・ 印刷術の発明 (15世紀半ばのドイツ、マインツ市、ヨハン・ゲーテンベルク) から15世紀末までの間にヨーロッパで金属活字を用いて印刷・刊行された本の総称。インキュナブラ、揺籃期本、初期印刷本などとも呼ぶ。
- ・ 最初期の本には標題紙や刊記がない。
- ・ 本自体に出版事項が印刷されていない場合、“もともと印刷されていない情報を集めたり、使われた活字から印刷所を突き止め、その活動範囲などから印刷年を推定することで印刷物がインキュナブラであるかどうかを判定することができる”(「西洋印刷術の黎明」より)。

① ブラッドショー (Henry Bradshaw) : ケンブリッジ大学図書館長

著作は少ないが、書簡を通じて初期刊本研究に大きな影響力を与えた
初期刊本は国別に研究しても意味がないと主張

1850年代から初期刊本を担当

1870年に初期刊本の書誌を刊行 *A Classified Index of the Fifteenth Century Books in the Collection of M.J. De Meyer, Which Were Sold at Ghent in November, 1869*

② プロクター (Robert Proctor)

1898年 英国博物館・オックスフォード大学ボドリー図書館が所蔵する初期刊本の目録の編纂

ブラッドショーにならった「プロクター式配列法」

英国博物館 (現英国図書館) 所蔵初期刊本目録 *Catalogue of books printed in the XVth century now in the British Museum (BMC)* の基礎を築く (A.W. ポラード編纂、1908～刊行)

※BMCの復刻版 (1962～) 1～10巻のデジタル画像はBLウェブサイトから公開されている。

<https://www.bl.uk/collection-guides/early-printed-books>



画像は Wikipedia(英)より



(2) 「新書誌学」

印刷されたテキストに影響を与えるものとして、印刷工房での作業の実態や習慣に着目した。信頼のおける校訂版を作るためにテキスト伝達の歴史を明らかにすることを目的に、シェイクスピアなどのエリザベス朝・ジェームズ1世時代の文学作品を主たる対象として、多くの成果を挙げた。

① 第一世代 : A.W. ポラード (A.W. Pollard)、マッケロー (R.B. McKerrow)、グレッツ

グ (W.W. Greg)

たとえば、ポラードはシェイクスピアの二折判「ファースト・フォリオ」を研究し、欄外標題の使い方から、その使いまわしや、喜劇部分の印刷の順序を推定した。

また、1600年、1608年、1619年の日付をもつ9版のシェイクスピアの四折判を調査し、実際にはすべて1619年に印刷されたことを証明し、書物の刊記にある出版者名や出版年には偽り（や誤り）もあることを示した。

② 第二世代：グレアム・ポラード (H.G. ポラード) とカーター (John Carter)

ポラードとカーターは、ブラウニングの詩集とされる『レディング版・ソネット』(1847年)に関する研究成果 *An Enquiry into the Nature of Certain Nineteenth Century Pamphlets* (Constable, 1934)を公表した。活字の形状の詳細な調査と活字見本帳との照合、紙の化学的な分析の結果から、これがワイズ (Thomas J. Wise) による贋作であることを明らかにした。また、19世紀の文学作品の初版とされた別の46作品も、実際にはワイズによる贋作であることを証明した。

参考) 高橋俊哉. ある書誌学者の犯罪: トマス・J・ワイズの生涯. 河出書房新社, 1983, 312p.

③ 第二次世界大戦後の発展：アメリカの学者が牽引

印刷工房の作業実態に焦点を当てた研究が発展を続けた。主たる対象はシェイクスピアなどのエリザベス朝・ジェームズ1世時代の文学作品だった。

- ・バウアーズ (Fredson Bowers) によるヴァージニア書誌学会の設立
- ・ヒンマン (Charlton Hinman)

印刷上のさまざまな証拠、つまり活字の使われ方、スケルトン・フォーム、罫線、欄外標題、木版画の飾り、綴り（正書法が未確立だったため、植字職人の癖や好みも反映された）、印刷中の修正によって生じる現存本間の違いに焦点し、植字・印刷・校正の過程の詳細を明らかにした。また、初の本格的な校合機を考案し、現存諸本の本文の違いを明らかにすることで、「理想本」のファクシミリ版を作成した。

(3) テクストの社会学

マッケンジー (D.F. McKenzie) は、新書誌学が印刷工房での作業を単純化しすぎ、一般化しすぎた（事例もあった）ことを批判した。物理的な特徴ではなく、デザイン上の特徴を、社会的な関係から分析することを唱え、テクストの社会学と呼んだ。

Bibliography and the Sociology of Texts (London, British Library, 1986)

(4) 書物史 (History of the book)

「テキストの社会学」の方向性は、本と社会・経済の相互作用や経済的・政治的動因としての本という観点から、本の生産・普及・受容といった読書をめぐるサーキットについて研究するという書物史に組み込まれていく。フランスで1958年にフェーヴルとマルタンによって『書物の出現』(筑摩書房, 1998)が刊行されたことを契機にさかんになったアプローチである。

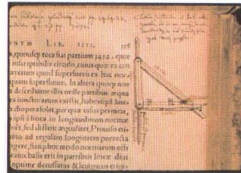


最近では、書物の来歴や本に残された書き込みから特定の作品の受容を検証したり、特定の個人の蔵書に着目したりといった、詳細かつ実証的な研究も増えてきた。

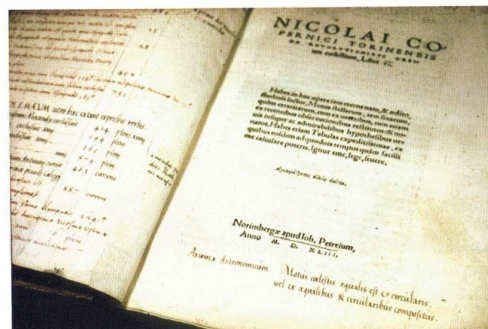
たとえば、ギンガリッチは、「誰も読まなかったベストセラー」と言われていたコペルニクスの『天球の回転について』(初版: ニュルンベルク、1543年)の601冊の現存本の書き込みを30年がかりで調査し、この本が同時代の科学者達によって本格的に読まれてきたことを示し、当時の科学者達をつなぐネットワークを描き出した。



7c ヘルヴァルト・フォン・ホーエンブルクが自分の「回転について」に残した色鮮やかな書き込み



7e 余白に描かれたトリケトラム(訳注: 中世の角度測定装置。水平の円材と垂直な柱。そのあいだで支持されたアリダードという高度測定装置で構成される)にヴィルヘルム・シュツカルトの画才が見て取れる。トリケトラムはコペルニクスが言及した数少ない器具の1つ



4b 豊富な書き込みのほどこされたエラスムス・ラインホルトの「回転について」の扉に、ラインホルト自身が書いた言葉

画像出典: オーウェン・ギンガリッチ. 誰も読まなかったコペルニクス: 科学革命をもたらした本をめぐる書誌学的冒険. 柴田裕之訳. 早川書房, 2005. (一般向けの啓蒙書)

北村紗衣は、1590年代から1769年までに刊行されたシェイクスピアの作品への書き込みや手紙から、女性の観客がシェイクスピアの受容と正典化に果たした役割を分析した。(北村紗衣. シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち: 近世の観劇と読書. 白水社, 2018.)

また、高宮利行は16世紀から20世紀のイギリスの愛書家19人を取りあげ、書物の所有銘や、下線や訂正、注記などの書き込み、その際の筆跡、蔵書票、外部的な記録として蔵書目録や競売目録から、彼らと書物の関係を読み解いた。(高宮利行. 書物に魅せられた奇人たち: 英国愛書家列伝. 勉誠出版, 2021.)

3. 手引き印刷機時代の印刷

(1) 現代の本との違い

産業革命以前の印刷本（おおむね 1830 年代まで）は、活字を並べ、手引き印刷機により印刷されていた。15・16 世紀は標題紙や刊記があるとは限らず、あっても正しいとは限らず、情報源により同じ本の出版年の推定が異なることもある。挿絵、口絵、標題紙などに使われる木版面は使い回され、他の印刷業者に売買されることもあった。また、未製本のままで売られ、読者がそれぞれ製本するのが普通だったため、1 冊ずつ外見が異なる。

さらに、同じ刷でも中身が異なることは珍しくない。印刷中の修正（stop-press correction）が行われ、違い（stop-press variant）が発生するためである。

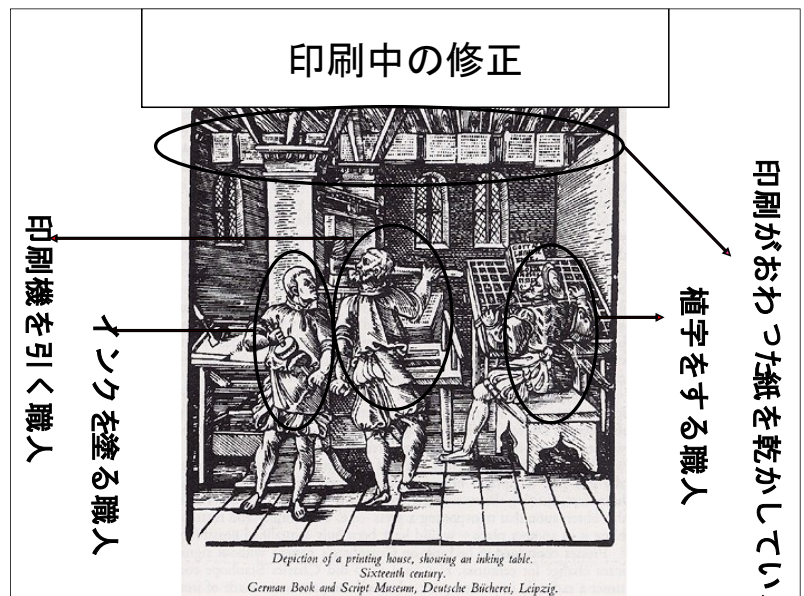
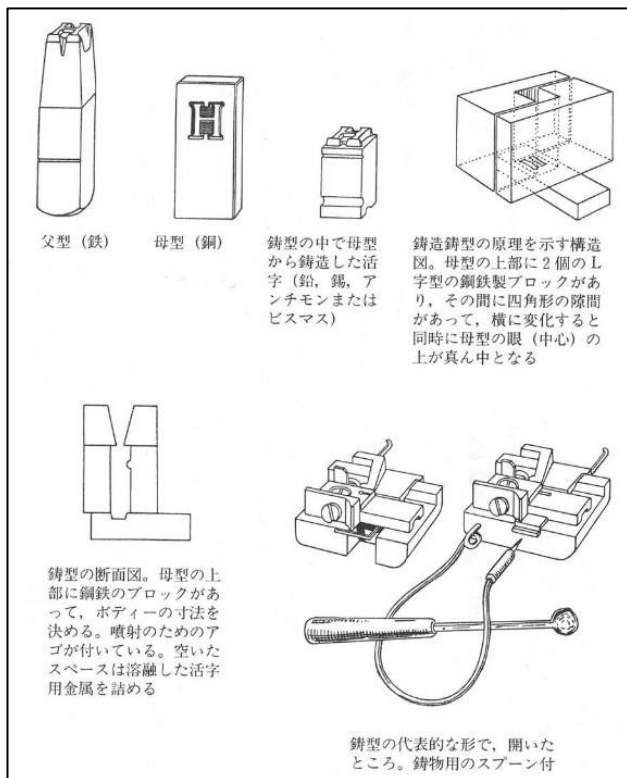
(2) 活版印刷技術と印刷の工程

- ・活字鑄造：父型（punch）→ 母型（matrix）→ 鑄型（mould）

【参考動画 「いまよみがえる蠟型電胎法による母型鑄造」より】

- ・活版印刷の工程：植字（composition）→組版（imposition）→印刷（presswork）→校正（proof-reading）・印刷中の修正（stop-press correction）→印刷の続き

【参考資料 活字と組版の現物】



上図：16 世紀の印刷所を描いた版画

左図：出典：富田修二『ゲーテンベルク聖書の行方』図書出版社，1992，p.259.

4 校合：

(1) 校合の意義

印刷本はまったく同じもののアナロジーとしてよく引き合いに出される。しかし、手引き印刷時代の書物には、単語や綴りに加え、異形活字や単語間の間隔の変更などの印刷上の細かな違いが存在し、それが印刷工程解明の手がかりとなりうる。いわゆる現代の本の複本とは異なり、同じ本を何冊も所蔵／デジタル化する意味がある。ただし、そのためには画像の撮影方法（平面性や正確さ）にも気を配る必要がある。

“本には、同じ本に見えても、同一ではないものがある。書誌学を習い始めた人はこの点を忘れてはならない”（Greg；高野彰. 洋書の話. 第二版. 朗文堂, 2014, p. 213.）

ヒンマン (1(2)③) は、自ら考案した光学式校合機を用いて、1950年代にシェイクスピアの最初の作品集 (First Folio) 約 80 部の校合を実現した。最初から最後まで同一なのは 2 ペアのみだった。彼は理想本の本文を確定し、ファクシミリ版として出版した。

また、安形はグーテンベルク聖書のデジタル画像を用いて校合を行い、ヨーロッパ最初の印刷所でも印刷中の修正作業が行われていたこと、紙の方が羊皮紙よりも先に印刷されていたことなどを明らかにした。（安形麻理. デジタル書物学事始め：グーテンベルク聖書とその周辺. 勉誠出版, 2010.）

(2) 校合の手法

①肉眼で見比べる

参考：自分が持っている和装本であれば、かがり糸を切るなどして、“両者を重ねて明かりに透かしてみる”ことも可能？（林望. リンボウ先生の書物探偵帖. 東京, 講談社, 2000, p. 216.）。洋装本ではそうはいかない。

②校合機で比べる：ヒンマン校合機、ステレオスコープ型の校合機

③コンピュータでデジタル画像を比べる

市販ソフトを応用した研究手法の紹介

Photoshop による静的な／動的重ね合わせ

動画制作ソフトによる動的重ね合わせ

④便利な汎用ツール

ウェブ上で利用できる「差読のための画像照合サービス vdiff.js」

人文学オープンデータ共同利用センター (CODH) が提供

任意の 2 枚の画像を照合

<http://codh.rois.ac.jp/differential-reading/web/>

5. 参考文献

【用語辞典】

ジョン・カーター. 西洋書誌学入門. 横山千晶訳. 図書出版社, 1994, 428p. (絶版) (原書は初のイラスト入りの第9版が出ました。Carter, John, Nicolas Barker & Simran Thadani. ABC for Book Collectors. 9th ed. New Castle, Delaware, Oak Knoll Press, 2016.)

【本の歴史全般・書物史】

高宮利行. 西洋書物史への扉. 波書店, 2023. (新書)

高宮利行. 書物に魅せられた奇人たち: 英国愛書家列伝. 勉誠出版, 2021.

北村紗衣. シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち: 近世の観劇と読書. 白水社, 2018.

デイヴィッド・ピアソン. 本: その歴史と未来. 原田範行訳. ミュージアム図書, 2011.
(図版が豊富)

オーウェン・ギンガリッチ. 誰も読まなかったコペルニクス: 科学革命をもたらした本をめぐる書誌学的冒険. 柴田裕之訳. 早川書房, 2005.

リュシアン・フェーブル, アンリ=ジャン・マルタン『書物の出現』筑摩書房, 1998.

【分析書誌学】

雪嶋宏一. 西洋古版本の手ほどき: 基礎編. 明治大学リバティアカデミー, 2011.

Tanselle, G. Thomas. Bibliographical analysis: A historical introduction. Cambridge, Cambridge University Press, 2009. (書誌学の動向をコンパクトに解説、文献案内も充実している)

【書誌学とデジタル技術】

安形麻理. デジタル書物学事始め: グーテンベルク聖書とその周辺. 勉誠出版, 2010.

檜村雅章. 貴重書デジタルアーカイブの実践技法: HUMI プロジェクトの実例に学ぶ. 慶應義塾大学出版会, 201.

【記述書誌学】

高野彰. 洋書の話. 第二版. 朗文堂, 2014.

Bowers, Fredson. Principles of bibliographical description. Winchester, St. Paul's Bibliographies, 1986.

【活版印刷】

森啓. 図解活版印刷技術マニュアル: 女子美・相模原印刷工房の場合. 女子美術大学, 2010.

(動画) ほぼ日刊イトイ新聞. 活版印刷職人・加藤隆男さんの「活字拾い、組版、印刷から裁断」まで <https://www.youtube.com/watch?v=AoaxKEgDMic>



(動画) *Making of a Renaissance Book* (<https://www.youtube.com/watch?v=ZHprwjOJIn8>)

16 世紀から 18 世紀まで印刷所であったアントワープのプランタン・モレトゥス印刷博物館（世界遺産）制作の白黒動画（英語）
（博物館）凸版の印刷博物館（体験可能）
（博物館）ミズノ・プリンティング・ミュージアム（要予約）
（博物館）DNP による「市谷の杜 本と活字館」（近代化された活版印刷）



【印刷術発明の影響】

（動画）ユネスコ「世界の記憶」歴史まるわかりトーク【第一部】

②「ここがすごいよ！グーテンベルク聖書」（20 分～）

アンドルー・ペティグリー. 印刷という革命：ルネサンスの本と日常生活.

桑木野幸司訳. 白水社, 2015)

E. L. アイゼンステイン. 印刷革命. みすず書房, 1987.



【インキュナブラ】

国立国会図書館「インキュナブラ 西洋印刷術の黎明」 <http://www.ndl.go.jp/incunabula/>
慶應義塾所蔵のインキュナブラ

解説 <http://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/incunabula/>

グーテンベルク聖書の全ページ画像

<http://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/gutenberg>

安形麻理. デジタル書物学事始め：グーテンベルク聖書とその周辺. 勉誠出版, 2010.

富田修二. さまよえるグーテンベルク聖書. 慶應義塾出版会, 2002.

高宮利行. グーテンベルクの謎. 岩波書店, 1998.

富田修二. グーテンベルク聖書の行方. 図書出版社, 1992.

